

西之島の火山活動解説資料（令和3年9月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

今期間、噴火は確認されませんでした。引き続き、山頂火口内に噴気や高温域が認められており、噴火が発生する可能性があります。山頂火口から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や溶岩流に警戒してください。

令和2年12月18日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報を発表し、警戒が必要な範囲を山頂火口から1.5kmに縮小しました。その後、警報事項に変更はありません。

○活動概況

・衛星による地表面温度及び噴火の状況（図1）

気象衛星ひまわりの観測では、噴火は確認されませんでした。西之島付近の地表面温度¹⁾については、2020年8月以降は周囲とほとんど変わらない状態が継続しています。

・現地の状況（図2、図3）

8月26日（期間外）に海上保安庁が実施した上空からの観測では、灰色及び白色の噴煙が確認され、火砕丘北部外側の斜面に硫黄の昇華物が広く分布していました。また、島の東岸から西岸にかけて黄緑色の変色水域が、南岸及び南西岸の一部で濃い茶褐色の変色水域が分布していました。

9月12日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、火砕丘の火口内壁、北側の中腹に噴気が認められ、火口内壁に地熱域が認められました。また、島の北東岸、南東岸及び南西岸に濃い茶褐色の変色水が分布していたほか、島の全周で黄緑色の変色水域が分布していました。

1) 輝度温度による。輝度温度とは、気象衛星で観測された放射エネルギーを観測対象が黒体と仮定して変換した温度のことで、他の温度と区別するためこのように呼ばれています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和3年10月分）は令和3年11月9日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は、海上保安庁のデータを利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

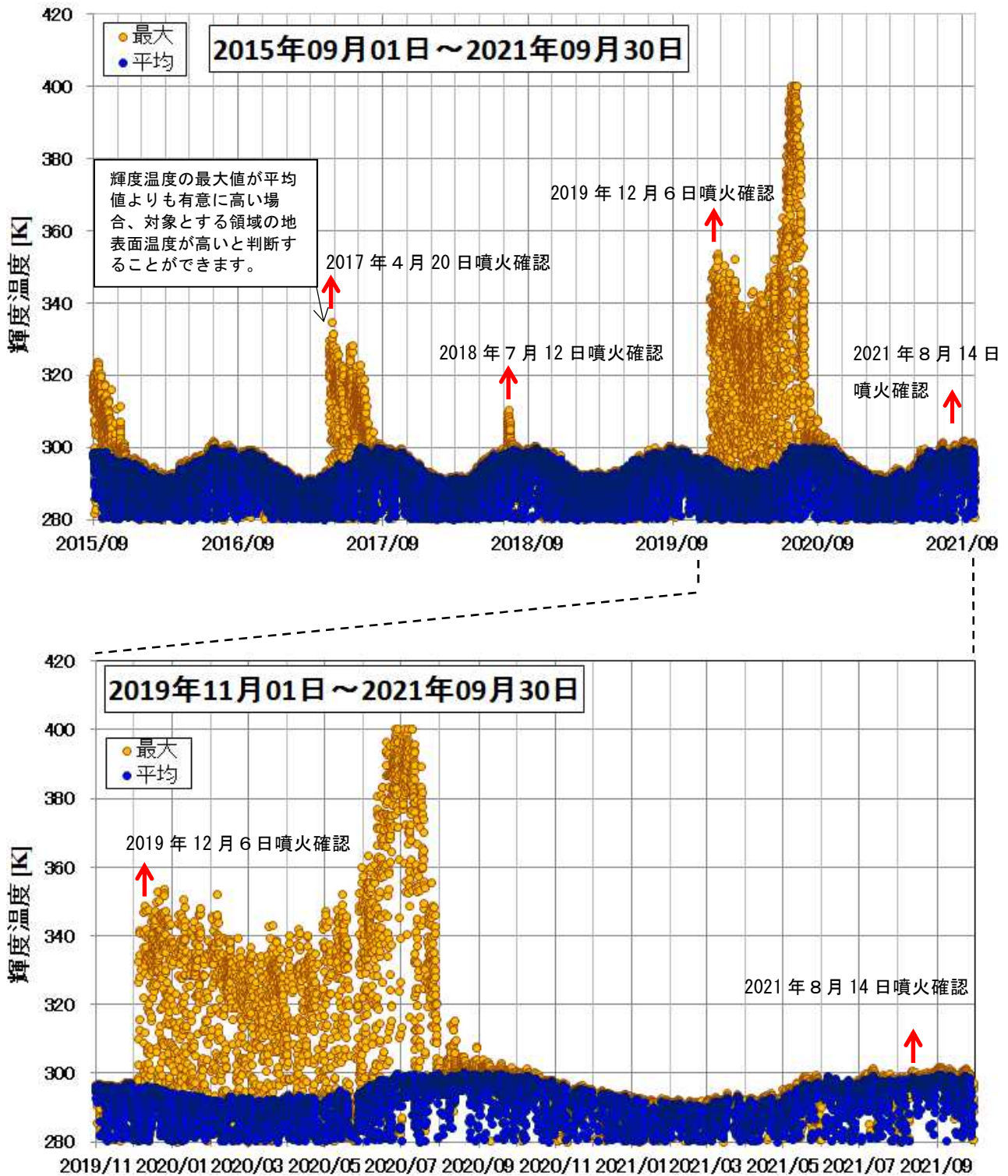


図1 西之島 気象衛星ひまわりの観測による西之島付近の輝度温度の変化
 輝度温度は中心波長 $3.9\mu\text{m}$ 帯により観測されたものです。
 西之島を含む概ね30km四方の領域内の輝度温度の最大値と平均値を示しています。
 日射による影響を考慮し、夜間の観測値のみ解析しています。

- ・2019年12月以降、噴火活動の活発化や溶岩流出により西之島付近で周囲に比べて地表面温度の高い領域が認められました。2020年8月以降、地表面温度は周囲とほとんど変わらない状態が継続しています。

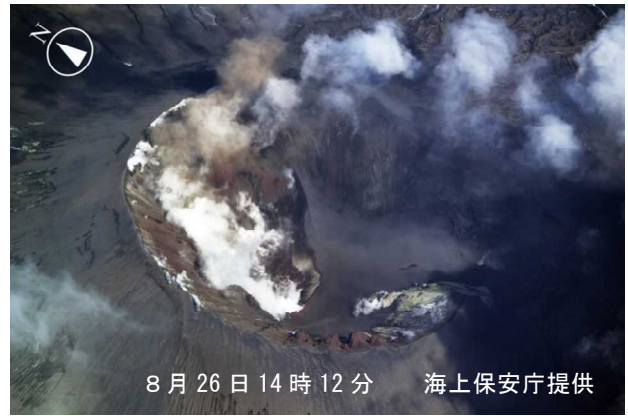


図2 西之島 西之島の状況（8月26日（期間外）に海上保安庁が実施した上空からの観測）

- ・灰色及び白色の噴煙が確認されました。8月16日の観測と比較して噴煙の量が増大していました。
- ・火砕丘北部外側の斜面に硫黄の昇華物が広く分布していました。
- ・島の東岸から西岸にかけて黄緑色の変色水域が、南岸及び南西岸の一部で濃い茶褐色の変色水域が分布していました。

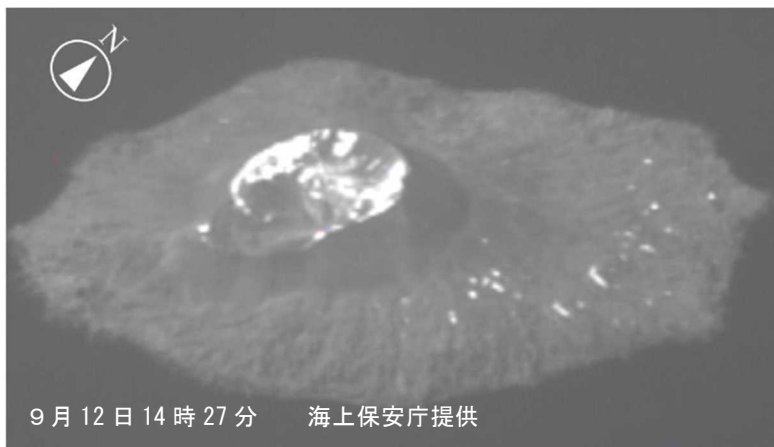
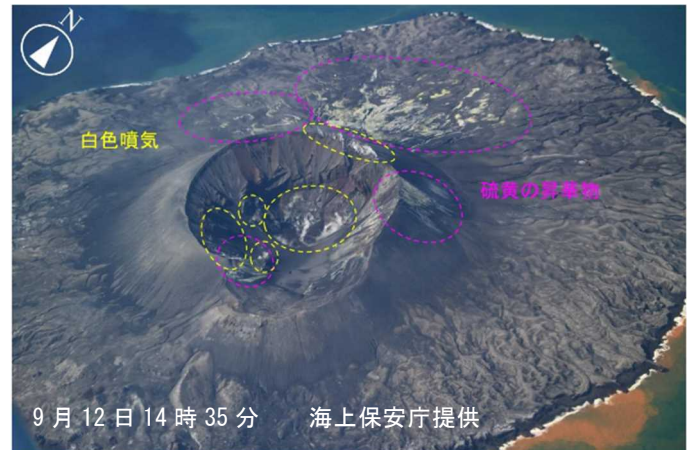
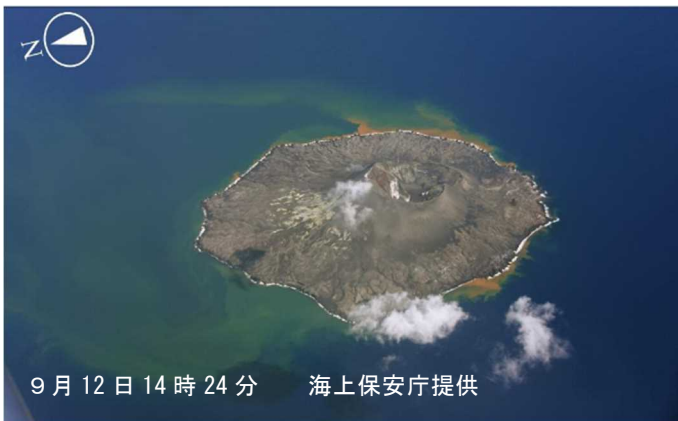


図3 西之島 西之島の状況（9月12日に海上保安庁が実施した上空からの観測）

- ・噴火は認められませんが、火砕丘の中央火口底、内壁、火口縁に噴気が認められました。8月26日の観測と比較して噴気量は少なくなっていました（黄色破線内）。
- ・8月26日の観測時よりも硫黄の昇華物の分布が増加していました（紫色破線内）。
- ・島の北東岸、南東岸及び南西岸に濃い茶褐色の変色水が分布していたほか、島の全周で黄緑色の変色水域が分布していました。
- ・火砕丘中央火口や島の東部、北西部の一部が周辺より高温になっていました。

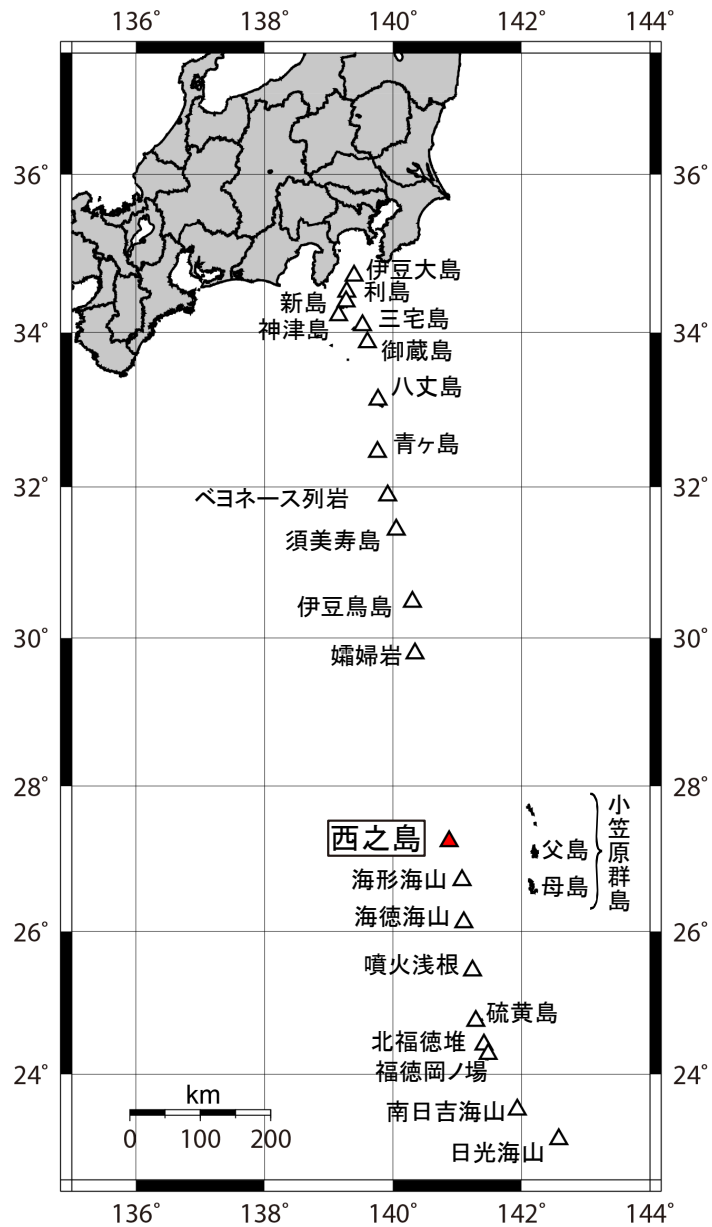


図4 西之島 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図
西之島は、東京の南約1000km、父島の西約130kmに位置します。